

OD調査・人流調査等の結果（速報）

OD調査 - 乗降調査について

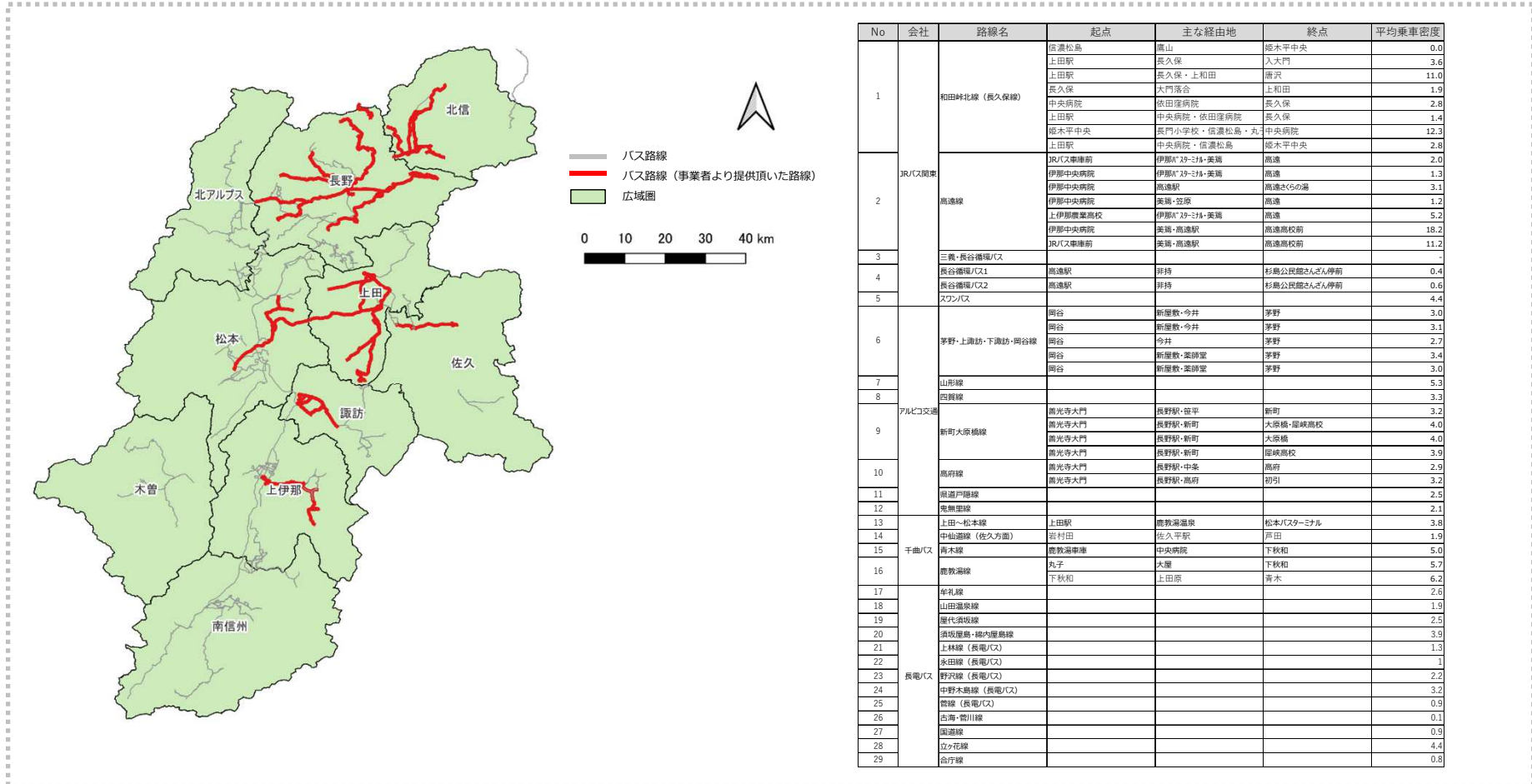
■ 目的

バス路線のあり方を検討するため、バス停間の移動実態を調査

■ 実施概要

- 1) 事業者より提供データ (様式1-5) より把握 ……53路線 (内29路線受領)
- 2) 乗降調査より把握 ※3月7日 (月) ~3月16日 (水) ……32路線

< 事業者より提供いただいたバス路線を図化 (速報値) >



調査結果は路線の評価指標として活用予定

OD調査 - 配布アンケート

■ 目的

- ① バス利用の需要（目的別、利用頻度等）
- ② バスに対するイメージや改善要望（ルート設定、ダイヤ、運賃等）

これらの実態把握を目的として、バス利用者を対象に調査を実施

■ 実施概要

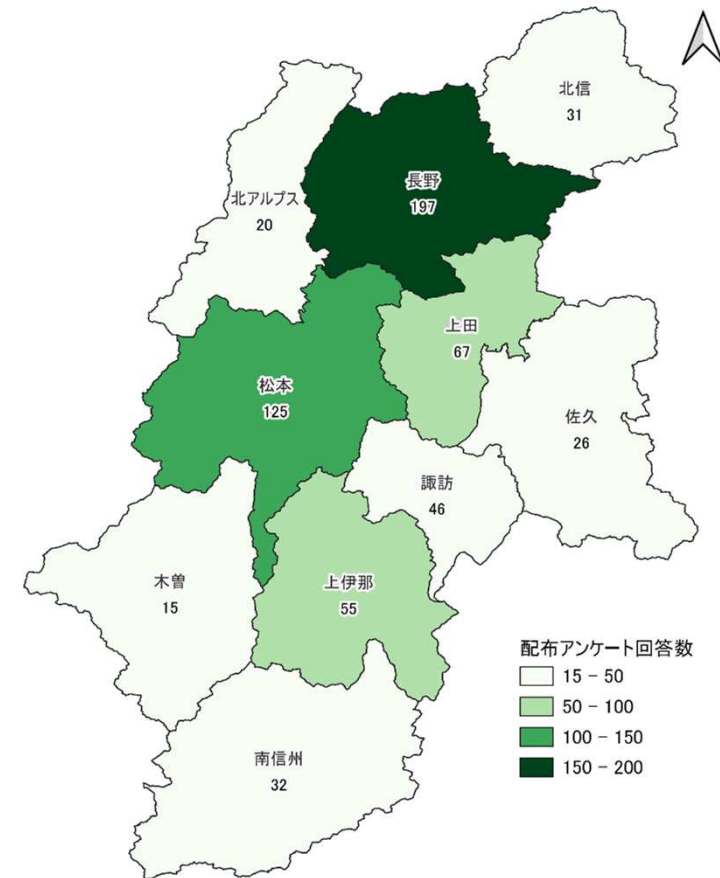
配布期間：1月24日（月）～28日（金）

配布地点：各広域圏2～4の主要なバス乗降地点 合計24地点

回収期間：～3月1日（火）

配布方法：バスに乗車していたまたはバスに乗車する方に対してアンケート票を配布

■ 広域圏別回答数



n=614

アンケート回答数（全県）

■ 調査項目の概要

項目	調査事項
回答者基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住地 ・ 年齢 ・ 性別 ・ 職業 ・ 運転免許の保有状況 ・ 自由に運転できる自動車の有無 ・ 同居している家族に送迎依頼が可能か
対象バス※の利用頻度・利用理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用頻度 ・ 利用理由 ・ 満足している点 ・ 改善すべき点
バスを利用した移動（場所・目的・交通手段）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅から目的地に向かうまでに利用した交通手段 ・ 外出の目的地 ・ 目的地のある地域 ・ 目的地から自宅に向かうまでに利用した交通手段 ・ 自由意見

※対象バス：アンケートを受け取った際に乗車していたまたはアンケートを受け取った直後に乗車したバス

OD調査 - 配布アンケート

■ 集計結果（一部抜粋）

1. 回答者の属性

○ 年齢

- 若年層から高齢まで広い層から回答を得られた。

○ 回答者の自家用車のアクセス性

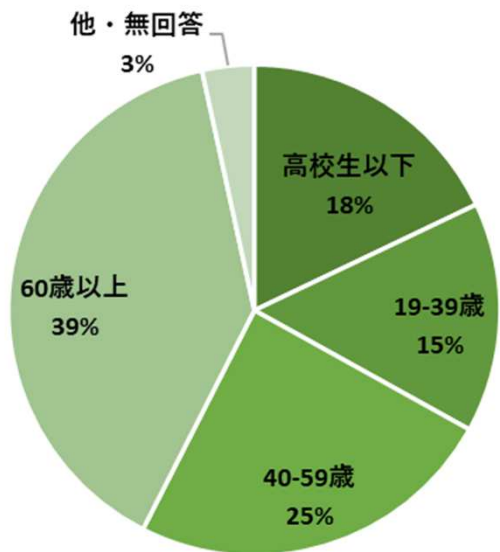
- 回答者の免許あり、免許なしの割合は県全体で概ね同程度。
- 「免許あり、自由に運転できる車なし」「免許なし、同居家族に送迎依頼不可」といった自家用車の利用が難しい人が概ね半数を占める。

2. 対象バスの利用頻度、利用理由

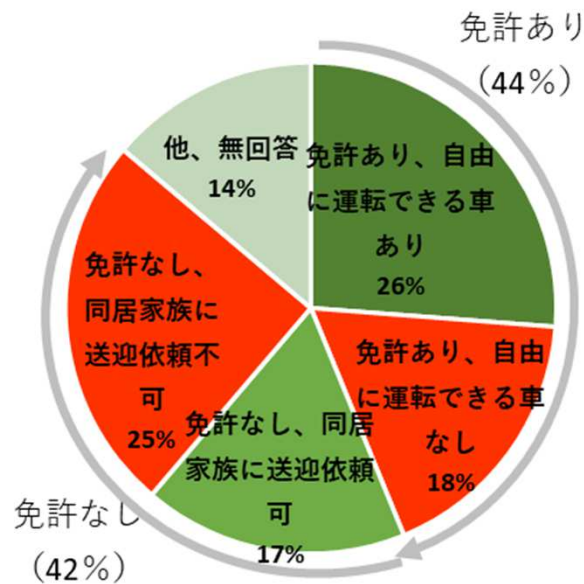
○ バスの利用頻度

- 県全体の傾向として、対象バスを週に5日以上利用する人が最も多く、日常的な交通手段としてバスを利用している人が多く回答したと考えられる。

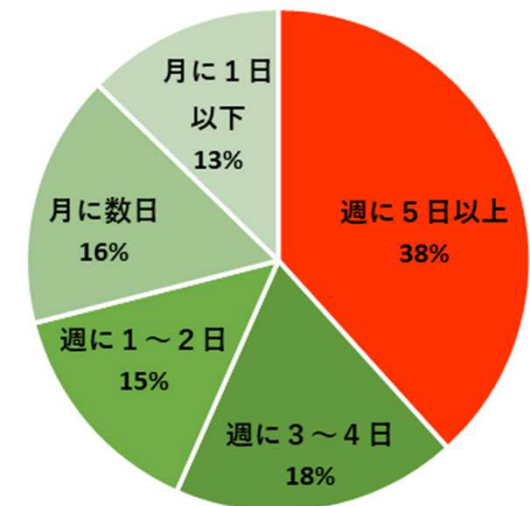
県全体の傾向



n=614



n=614



n=614

OD調査 -配布アンケート

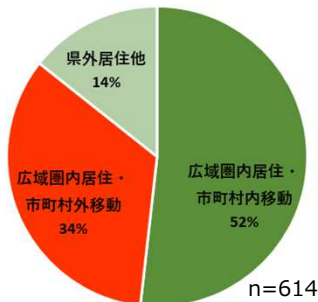
■ 集計結果（一部抜粋）

3. バスを利用した移動

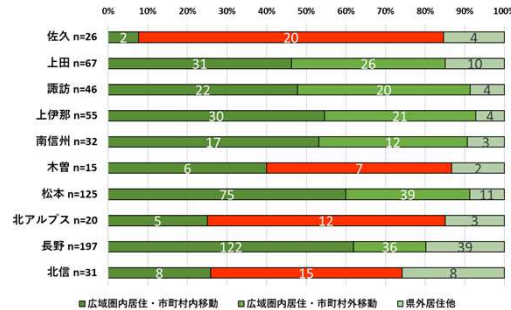
○ バスの広域的な利用度合い

- 回答者のうち、居住している市町村以外への移動でバスを利用しているのは概ね30%程度であった。
- 佐久地域、北アルプス地域、北信地域、木曽地域では、市町村内の移動より市町村外への移動の方が多い。

< 県全体の傾向 >



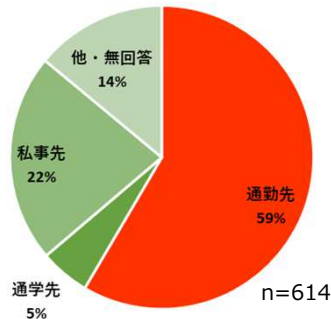
< 各広域圏の傾向 >



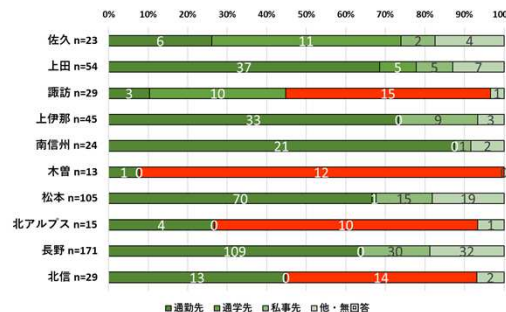
○ バスを利用した移動の目的地

- バスを利用した移動の主な目的地は県全体で通勤先が最も多い。
- 佐久地域や諏訪地域では通学先が、諏訪地域や北アルプス地域、北信地域、木曽地域では私事先が上位に入っており、地域（路線）ごとの性格の違いが反映されていると考えられる。

< 県全体の傾向 >



< 各広域圏の傾向 >



4. 自由意見 ※県全体で308件

運行本数が少ない

- 公共交通はバスしかない地域に住んでいるので、学生の私にはなくてはならない交通手段。バス代が安くなって助かった反面、土曜、日曜が無くなってしまい不便。土、日の運転も再検討をお願いします。(佐久地域 / 15歳以下・男性・学生)
- バスを利用する人が少ないので仕方ないですが、本数が少ない。これから高齢化社会になり、自分も公共交通を利用するようになっていくと思うが、交通の便はよい方がよいと思う。(上田地域 / 25-39歳・女性・職業無回答)
- 朝利用していたことが少しあったが高校生でいっばいで、その時間だけ本数を増やしてもらえばよいと感じた。利用する人が限られている中で本数を増やす事はなかなか厳しいと思うが、将来年をとって車が運転しづらくなった時、バスがもう少し本数多かったら利用できると思った。(南信州地域 / 50-59歳・男性・勤め人)

乗り継ぎが悪い

- 市内のバス路線が8路線あるが時間があわず、乗り継ぎが悪く大変不便である。目的地まで行くのに時間がかかる。本数を増やしてほしい。(諏訪地域 / 60-69歳・男性・パート・アルバイト)

時刻表通りにバスが来ない

- 時刻表通りにバスが来たことが私が2ヵ月利用している中で一度もないので改善をできればしてほしいです。遅れる時は20分以上遅れているので。アプリでバスの運行情報を確認できますが分かりづらくまた正確ではないので改善してほしいです。(長野地域 / 25-39歳・女性・勤め人)

他多数 5

OD調査 - WEBアンケート

■ 目的

- ① 県民の普段の移動の実態（目的別、利用頻度、交通手段等）
- ② バスに対するイメージや改善要望（ルート設定、ダイヤ、運賃等）

これらの実態把握を目的として、県民を対象に調査を実施

■ 実施概要

実施期間：3月11日（金）～

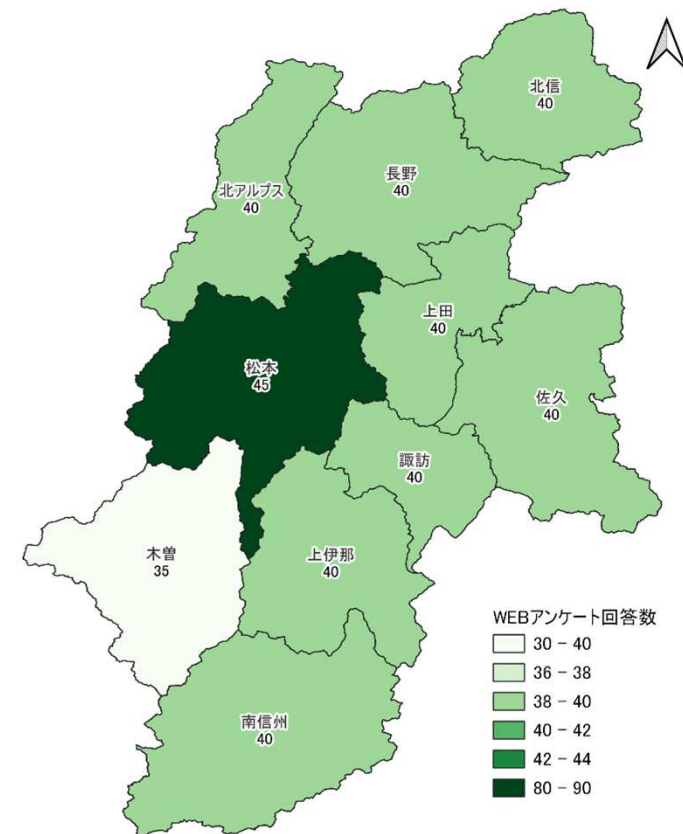
対象地域：長野県全域

回収期間：～3月17日（木）

■ 設問項目の概要 ※集計作業実施中

項目	調査事項
日常的な移動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的に行く場所、頻度、利用する交通手段 ・ 自動車が利用できない場合の行動変容
バスを利用した日常的な移動	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスを利用する頻度 ・ バスを利用する理由 ・ バスを利用しない理由
県内のバスに関するイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービスの改善すべき点 ・ 情報提供に関する意見 ・ バスに関する自由意見
回答者基本情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答者の運転免許の保有状況 ・ 回答者が自由に運転できる自動車の有無 ・ 同居している家族に送迎依頼が可能か ・ 送迎の頻度と送迎に要する時間

■ 広域圏別回答数



n=400

アンケート回答数（全県）

人流調査 - 調査概要

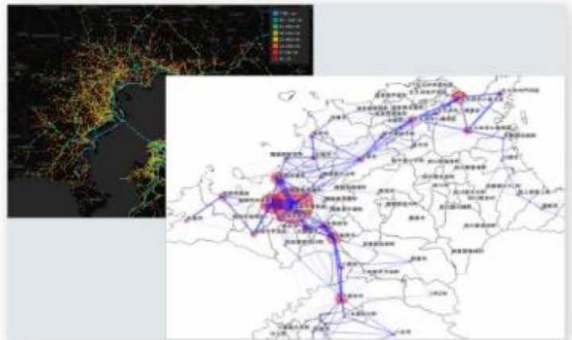
■ 目的

調査各地域に最適な交通モードを検討するため、
鉄道・自家用車等を含む各地域の人流の実態を把握。

<人流調査>

・鉄道・自家用車・徒歩等を含めた総合的な移動の実態を調査

→既存の交通ネットワークとの乖離、新たなニーズの発掘に活用



(出典: (株) Agoop ホームページより)

出典: R3年度第1回長野県公共交通活性化協議会資料

■ 概要

・メッシュデータ (スマートフォン端末のGPS位置情報) と
ポイントデータ (スマートフォンアプリのGPSデータ) を購入の上、
地域間の移動実態を集計・分析。

・分析対象のゾーン区分は県内の10広域・170ゾーン※とし、
ゾーン間の移動量を集計、可視化。

※交通センサスBゾーンと平成の大合併前の市町村区分の内、細かい方を採用

・分析データの対象月: 2021年10月 (1か月)

: 費用の制限や、コロナ前までの回復は想定されないことを考慮

: ポイントデータは2019年10月 (1か月) のデータも購入し、比較分析が可能

・ポイントデータについては、日本人と外国人の別での分析や、移動滞在箇所の分布についても分析を実施。



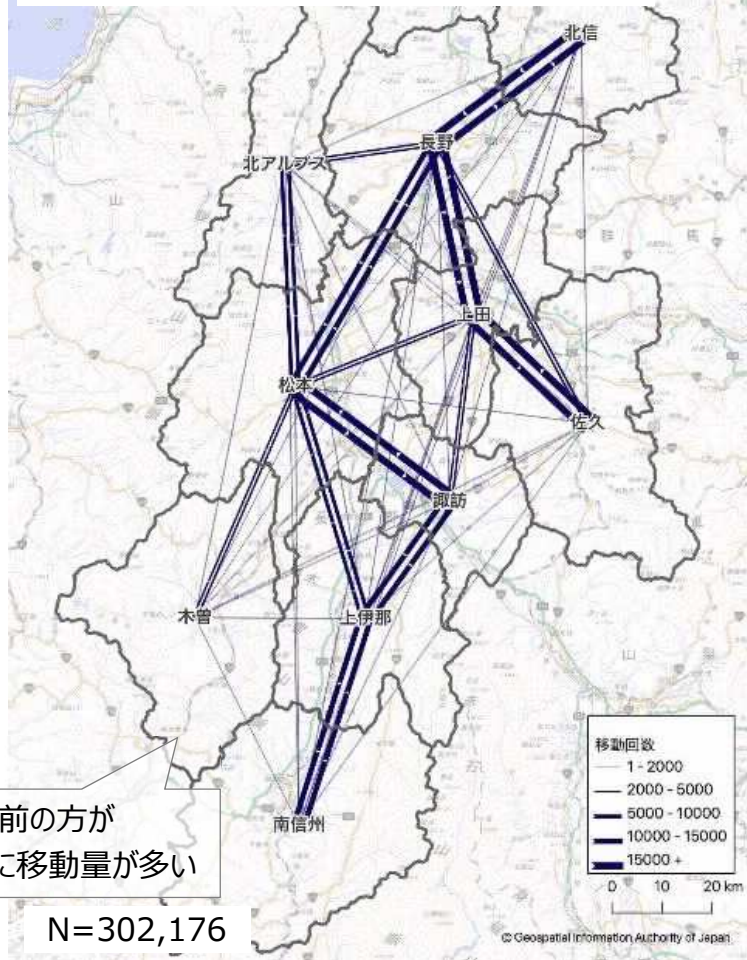
人流調査 - 実態把握結果（途中報告）

■ コロナ禍での移動の増減（ポイントデータ利用による周遊分析）

- コロナ禍の影響を受けない2019年10月の方が、2021年10月と比べて取得データが多く、広域間で多くの移動が行われている。
- 広域間で最も移動量が多いのは上田⇔佐久であり2時点では変化はないが、全県で相対的にみると、上田⇔佐久や諏訪⇔上伊那は移動量の割合がやや増加し、長野⇔松本は割合がやや減少している。

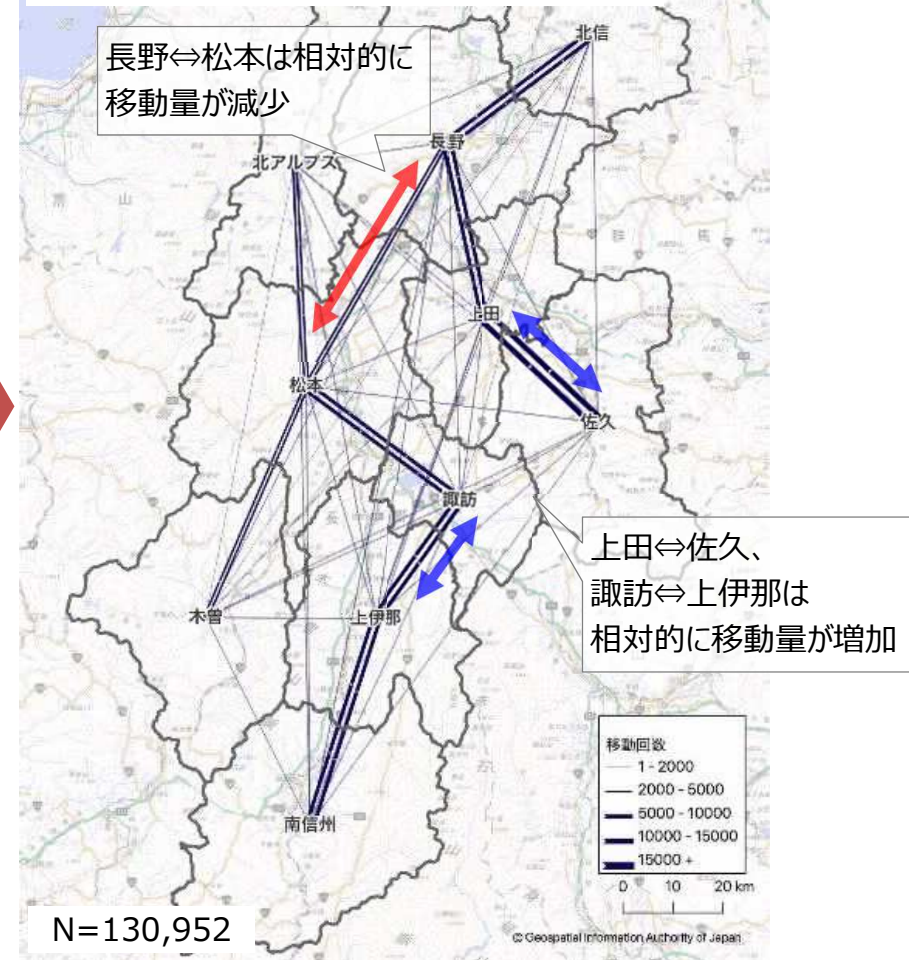
□ 2019年10月における10広域間の移動

※車移動、日本人を対象



□ 2021年10月における10広域間の移動

※車移動、日本人を対象



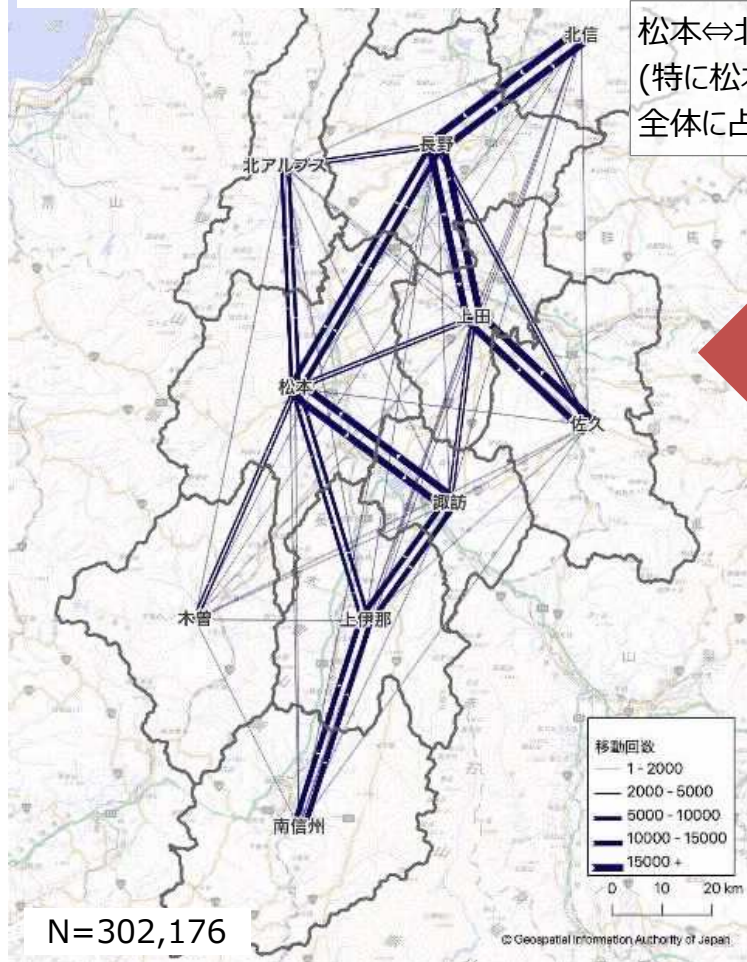
人流調査 - 実態把握結果（途中報告）

■ 県内における訪日外国人の移動（ポイントデータ利用による周遊分析）

- 訪日外国人と国内居住者で比較すると、訪日外国人の方では松本⇔北アルプス間の車移動割合が相対的に高くなっており、観光業等の影響が大きいと考えられる。
- 一方、訪日外国人の移動割合が低いODとしては上伊那⇔南信州などが挙げられる。

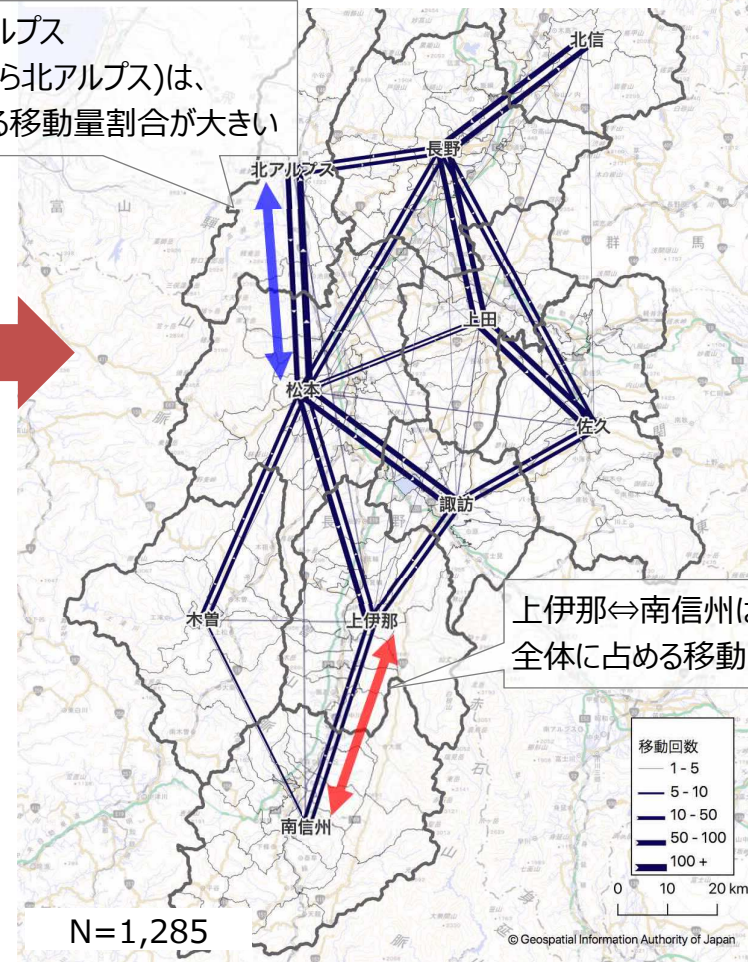
□ 2019年10月における国内居住者の移動

※車移動を対象



□ 2019年10月における訪日外国人の移動

※車移動を対象



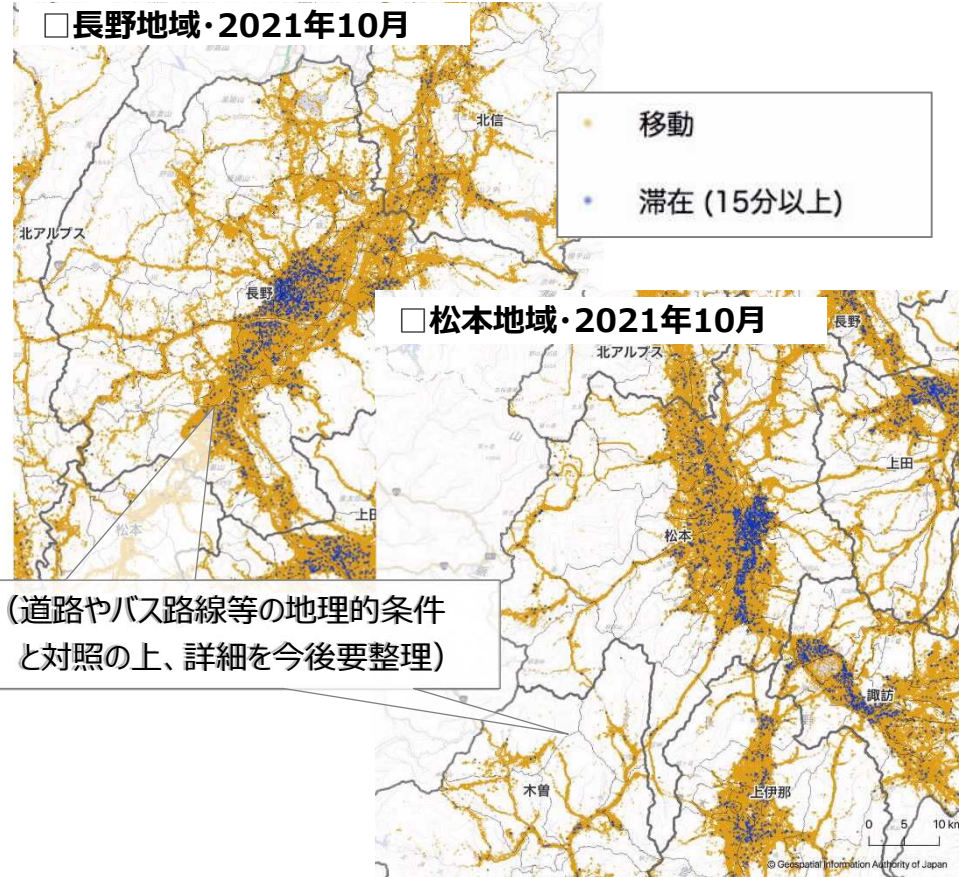
人流調査 - 実態把握結果 (途中報告)

■今後の予定

- ・ 現在集計中のメッシュデータの結果とポイントデータの結果を対比し、分析結果より得られた傾向について再確認。
- ・ ケーススタディ分析として“移動滞在分析”や“乗換箇所分析”を行い、路線評価等の基礎資料として活用。

“移動滞在分析”

; 15分以上の滞在箇所を移動と区別して地理的に可視化
→ 滞在目的地の実態と路線ネットワークとの整合性を確認



“乗換箇所分析”

; 移動速度より、車両移動と歩行で交通モードが切り替わった箇所を地図上で可視化
→ バス路線・停留所等と移動実態との関連性を確認

□ 検討イメージ (スワンバスでの検討例)

